

令和元年度

事業所名： あお空グループホーム小本

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000070		
法人名	(有)介護施設 あお空		
事業所名	あお空グループホーム小本		
所在地	岩手県下閉伊郡岩泉町小本字南中野285		
自己評価作成日	令和元年7月25日	評価結果市町村受理日	令和元年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夏は太平洋からの海風を感じ、夏涼しく冬温かい。近所は住宅や田んぼ・畑などがあり、静かな環境に立地している。近所の事業所(工場)と自然災害発生時に共に避難する協力体制も整っている。地元で採れた新鮮野菜や山菜を休初期に取り入れ、食事から季節感を味わえるように工夫している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、三陸道のインターチェンジや三陸鉄道の小本駅に隣接する田畑や住宅に囲まれた場所に立地し、周辺には町の支所、事業所、商店など生活関連施設が整備されている。敷地内には小規模多機能ホームや高齢者住宅があり、避難訓練の共同開催やボランティアによる演芸の見学など、連携が図られている。また、こども園や中学校の行事の見学や地域伝統芸能の訪問、町の担当者や住民参加の水害想定避難訓練の実施のほか、認知症カフェの開催や住民対象の認知症講演会の講師を務めるなど、地域との繋がりを大切にしている。運営にあたっては、法人の理念、方針に加え、グループホームのスローガンを職員で共有し、職員は利用者との共同生活者として、業務やお手伝いを通じ利用者へ寄り添い、利用者の意向に沿ったきめ細かな介護サービスを提供している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年8月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名： あお空グループホーム小本

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念を目に付きやすい所に掲示し職員は理解している	法人の理念や方針に加え、グループホームのスローガンを定め、職員会議やミーティングを通じて、職員間で共有し、職員と利用者が共同生活者としての認識のもと、利用者の心情を大切に、希望を聴き取り、利用者の意向に沿った介護サービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の事業所として、学校等の行事や演芸会の観賞等に参加し一緒に楽しむ機会を職員は作るように努力している。	こども園のクリスマス会や中学校の運動会に招待され、地域の防災組織や住民の協力を得て水害等を想定した訓練を実施した。また、認知症カフェの開催、地域の認知症に関する講演会講師を引き受けるなど、地域との関わりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを年に2回ほど開催、地域の方が認知症を知る機会となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を実施し取り組みを評価して頂いている。問題の有るケースについての相談や、地域資源(建物修理事業所)の紹介などもしてもらっている。	感染症予防対策、お祭り見学の際の席取り、更には、屋根の塗装業者の紹介に至るまで、委員からの助言、協力を得て、行事の実施や運営に生かしている。	警察官をゲストとして招聘し、徘徊対策、交通安全などについての助言、指導の機会を持たれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町の担当者が参加し定期的に施設に訪問している。ケアサービスについても気軽に相談できる体制が出来ている。	運営推進会議出席する町の担当者からは行政情報の提供があり、地域包括支援センターの保健師からは感染症予防の指導などを得ている。要介護認定申請や生活保護の諸手続きでも連絡を密にしているほか、法改正の説明会、研修会等にも出席している。町役場備え付けのボックスから各種情報を入手しているほか、災害情報端末からは緊急時等の情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の必要なケースは現在ない。定期的に研修を行い、職員は身体拘束廃止の必要性を理解している。	年4回、職員に対し、DVDや関係資料を活用した研修会を実施し、職員に身体拘束防止の意識を徹底している。身体拘束の事例もなく、玄関の施錠も夜間のみで、居室等へのセンサーの設置もない。利用者への言葉遣いなど、利用者の心情をくみ取りながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加している。虐待につながる恐れのある行為は些細な事でもミーティング等で話し合い予防が出来るよう勤めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている利用者様がいらっしゃる。家族や関係者と相談し制度利用開始できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際に説明をしている、又、入居申し込み相談を受ける際にも簡単に説明をし納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の参加ある、その場で意見を頂く事もある。ご家族や利用者の意見に耳を傾け、運営に反映するように努めている。	家族の来所の際に希望等をお聴きしているほか、遠方の家族には、電話のほか、日頃の様子の写真を掲載した広報紙をお送りかたがた意見、要望等を伺っている。重度化した場合の病院への職員の同行は家族の要望により、利用者からは季節のお菓子や作業服の購入などの要望があり、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎日の申し送りやミーティングに参加し職員の意見や提案を聞き、運営に反映出来るように努めている。	職員会議や朝のミーティングなどで職員から要望が話される。日用品の確保、備品の更新、起床時間の変更、雨天時の室内運動など、職員の提案を業務に反映させ、勤務体制や資格取得の要望にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・長年勤務(10年以上)職員に対し記念品贈呈や表彰制度が有る。 ・資格取得を支援する制度が有る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量や経験を把握し『認知症実践者研修』や『管理者研修』等学ぶ機会を儲けている。また、外部での研修に積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し研修会参加や情報交換できるようにしている。グループ内の施設間で交流している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面接を行い、困り事や暮らしの状況を確認をしている。そこで得た情報を基に職員間で不安を軽減できる関係を作る努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用希望提出の段階からご家族の困っている事や要望・不安を伺い、利用開始出来る関係を築くよう勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、ご家族の要望を聞くと共に、サービス利用中の場合は、担当ケアマネからも情報を得る等スムーズに利用開始できるよう勤めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様も役割を持って頂き共に暮らす一員としての関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が遠方に暮らしている、高齢家族等馴染みの関係を継続できない方も多し。面会や外出は制限なく出来るように心掛け、電話での会話も出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節ごとに発行する広報に、施設での様子や現状を理解できるようにお手紙を添えて家族に届けている。広報の中には必ず全員の利用者様が登場するように編集している。	幼馴染の方と外出し、お墓参り、外食をしている利用者もいる。移動販売車で懐かしいおやつや飲み物を購入している。郷土芸能の見学や町の施設でのボランティア等による演芸会に出かけ、地元の方々とお会いする機会としている。美容は訪問で対応し、理容、顔そりは外に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者の性格や関係を把握し、活動や仕事を誘い合いながら出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も相談を受ける体制は出来ている。終了後の暮らしが円滑に出来るよう相談や支援をしている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	些細なきずきを職員間で共有し、本人の意向や思いを理解するように努めている。	利用者が進んで話すことは少なく、職員から提案し、外出やお手伝いなどの意向・希望を聴いている。テーブル拭き、下膳、調理の下準備、洗濯たたみなどを自発的に行っている方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前に本人・家族から聞き取りを行っている。関わりの中で知った情報や面会に来た家族や知人から得た情報を職員間で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録等で日課の過ごし方や心身状況を把握しケアにつなげるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで本人のケアの有り方等を話し合っている。以前の様子を家族から聞き取り介護計画に反映する事もある。	短期3か月、長期6か月ごとに計画を見直している。モニタリングの結果や毎月のカンファレンスでの検討のほか、医師の指示や看護師の助言も計画に反映させている。家族の意向を伺い、遠方の家族には、電話や郵送で意向を確認し了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別計画記載する他、申し送りノートを使い情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日常生活全般を支援するため、柔軟な対応が出来るよう勤めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に出来るだけ参加をしている。地元の祭りや昔ながらの神楽など動画観賞会を開き楽しめるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれかかりつけ医を持ち、治療を受けている。急な病気の悪化がある時は職員と家族が協力しながら治療が出来るよう支援している。職員が同行し状態を説明する事もある。	全員が入居前からのかかりつけ医を受診しており、4～5人が家族が同伴し、その他は職員が同行している。家族同行時には、メモやお手紙を渡し普段の様子等を医師へ伝えている。精神科は町外の病院を受診している。歯科は巡回診療車(週2回)による診療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康等について、常に看護師と相談や助言を受ける体制が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は書面で情報提供すると共に、管理者が面会し安心して治療が出来るよう情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約の際に重度化の場合についての説明をしている。事業所で出来る事や家族の協力について、その都度家族と話しあい支援に取り組んでいる。	重度化(看取り)指針を作成し、入居時に説明している。これまで看取りの実績はない。重度化した場合は、改めて家族等の意向を確認し、希望の病院等に移送している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	職員は応急手当や心肺蘇生法等の講習を受け、緊急時の対応方法を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の工場や住民の避難協力を受ける体制が出来ている。安全な避難行動が出来るように訓練している。	年2回、消防署員立会いの避難訓練等を実施している。避難経路の確保や大声の対応など、講習で指導された事項は、次回の訓練に生かしている。風水害の避難訓練を地域の防災組織や住民の参加を得て実施し、避難場所への利用者の移動のほかハザードマップも確認している。防災備品、備蓄食材も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや介助方法はプライバシーに配慮している。また、方言を使い言葉掛けをする事が有る。	利用者の生活暦や能力に応じお手伝いや軽い運動などに誘い、その時の心情に応じて、特に言葉遣いには配慮している。広報紙への写真掲載は、予め意向を確認している。お風呂の異性介助を嫌がる方には、同性介助を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の小さな事でも自己決定出来るよう、その都度説明し答えを2~3準備するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	『したい事』『出来る事』を一緒に話し合い、ご本人のペースでその日を過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	パーマやカラー・カット等出来るように、馴染みの美容室から来て頂いている。買い物と一緒にでかけ、好みの衣類を選んで買う事が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみに出来るように、山菜や季節野菜の下ごしらえを一緒に行う。下膳やお盆拭きも利用者が参加出来るようにしている。	惣菜は1週間ごとに注文している。農家や家族等の差し入れ、菜園の野菜も活用し、味噌汁やおかずを作り、夏のはっとう・春の早採りワカメなど食卓でも季節を感じさせてくれる。おやつは購入品や家族のお土産、手づくりなどで対応している。行事食で、クリスマスのケーキ、年越しのしめ味のほか、郷土食のはっと、鮭まつりで鮭焼きなども提供している。誕生日は職員と2人による外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録用紙を作り食事や水分量を把握している。季節の料理(昔の行事)や聞き取った好物を取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの他、夜間は入れ歯洗浄剤を使い清潔保持に勤めている。又、自歯がある方は定期的に歯科受診し口腔内のケアをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のリズムを把握し、定期誘導や声掛け実施。自分でトイレに行く事が出来るようトイレに大きく目印をつけている。	利用者ごとに排泄パターンを把握し、誘導、案内をしている。完全自立は3名で、布パンツ使用は2名である。他の方はリハビリパンツにパットを併用している。夜間のポータブルトイレの利用は、1名である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や乳製品を取り入れた給食の提供、散歩や施設内の階段を利用した運動で便秘の解消に勤めている。主治医と相談し下剤や整腸剤を使用する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々の様子を理解し、入浴の声掛けをしている。無理をさせる事は無い。入浴しない方は『足浴』を行っている。	週2回、午後に入浴している。入浴を躊躇する方に「足浴しよう」と脱衣室へ誘うと、進んで服を脱ぎ入浴する。ゆず湯を提供しているほか、歌や世間話でくつろいでいる。一番風呂の希望も叶えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングのソファ等好きな所に休んで頂いている。安眠の為寝具の天日干しやシーツ交換をこまめにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬説明書やネットを使い薬の内容について理解するよう努めている。服薬の変更があった時は、特に病状の変化を見逃さないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の時の掛け声、来客の見送り等出来る役割を果たしている。食べなれた菓子や飲み物の提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を日課とし、出来るだけ外の空気に触れるようにしている。ドライブや地域交流・外食を活動の中に取り入れ、誕生日には個別で行きたい所へ個別に出掛けられるように支援している。	天気の良い日は、努めて周辺を散歩している。年間計画で、お花見、イチゴ狩り、紅葉狩りにドライブで出かけている。こども園のクリスマス会、中学校の運動会、集会施設での演芸会にも出かけている。菜園でトマト、なす等を栽培をしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人の希望があれば施設で少額の現金を管理し『買い物』が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や小包の御礼の電話や家族との電話での交流が出来るように支援している。耳が遠い方には替わりに出て近況を報告する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節の花を飾ったり、作品を展示している。クーラーを使用し不快な温度にならないように調整している。	大型のエアコンで温度が管理され、冬場は天気ストーブで暖をとっている。1階がロビーや食堂で、2階が居室となっている。多くの時間、1階の広々としたホールの食卓やソファで寛ぎ、テレビやゲーム、お絵かきなどを楽しんでいる。庭先の切り花や季節の飾り、利用者の作品が置かれ、明るく快適な環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際にソファを置き、横になったりくつろげるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お位牌を祀り、花や供物を供えている利用もいらっしゃる。担当の職員がかたづけや季節の物の管理・整理整頓を支援している。	ベッド、クローゼット、チェスト、ナースコール、テレビ端子が設置され、衣装ケース、イス、仏壇、ぬいぐるみ、家族写真などが持ち込まれている。それぞれの個性を生かした清潔感の感じられる居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室に目印を付け、目的の場所に行けるように工夫している。利用者同士で誘い合い一緒に自立生活を送る事が出来るよう工夫している。		